フォーマルな状況の話し言葉における フランス語1人称複数主語代名詞の使用 ―政治家のインタビューにおける nous / on―*

鈴木拓真

1. はじめに

Blanche-Benveniste et Jeanjean (1987 : 31-32)において現代フランス語話し言葉の形態統語論的特徴の一つに挙げているように，主語位置で発話者を含む複数の人（＝1 人称複数）を指す際に人称代名詞の nous よりも不定代名詞の on の方が頻繁に用いられる傾向にあることはすでに多くの先行研究で指摘されている．このように 1 人称複数を指す on を本論文では 1 人称複数主語代名詞としての on と呼ぶことにする．以下の(1)のように主語に nous を用いて発話することも可能であるが，実際の話し言葉では(2)のように主語に on が多く使用されている．

(1) Nous sommes allés au cinéma hier. 私たちはきのう映画館に行きました.

(2) On est allés au cinéma hier. 私たちはきのう映画館に行きました.

(2)のように主語が on となると，指示対象が 1 人称複数であったとしてもそれに続く動詞は 3 人称単数形となる統語的制約がある．1 人称複数主語代名詞としての on の使用は，動詞の活用の簡便のためとしばしば説明されることもあるが，本論文ではこの点についてはこれ以上踏み入れないことにしたい．

このような 1 人称複数主語代名詞としての on の用法は，Suzuki, Nakagawa, Kawanishi and Kawaguchi (2019)で言及されているように古仏語期にはすでにある程度確認できる．ただし Grafström (1969 : 276)によれば，このような用法の on が多くみられるようになったのは 19 世紀以降のことであり，特に第一次世界大戦と第二次世界大戦との間の時期に増加したとされている．Thomas (1956)や Grevisse (2011)のような戦後に出版された文法書をみてみると，くだけた話し言葉において 1 人称複数主語代名詞としての on が頻繁にみられると記述されている．しかしながら，少なくとも 20 世紀中頃まではこのような on の使用は忌避されるべきであるとする風潮や記述があったようである．たとえば Damourette et Pichon (1911-1940)には，(3)のように 1 人称複数主語代名詞としての on を使用した青年に対して母親がたしなめている例を挙げている．

(3) Un garçon de 17 ans : En classe, on était vingt-huit.

17 歳の少年：「クラスには，28 人いたよ.」

Sa mère : On était ! Nous étions vingt-huit.

母親：「on じゃないでしょ！ 『私たち(=nous)』は 28 人でしょ」

Damourette et Pichon (1911-1940, vol. 6 : 293-294)

しかしながら，Grafström (1969)が主張するように，(3)の親子同士の会話のようなインフォーマルな状況[1]の

話し言葉で，on の使用が忌避されるべきであるという風潮が現代でも強く残っているとは考えにくい．というのも，Coveney (2000)や鈴木 (2018)[2]においてインフォーマルな状況における話し言葉では nous は 1 人称複数主語代名詞としてはほとんど使用されず，on が頻繁に用いられていることがすでに明らかとなっているからである．一方，フォーマルな状況における話し言葉での 1 人称複数主語代名詞の使用に関して深く調査した研究は管見の限りほとんど見当たらない．鈴木 (2018)においてインフォーマルな会話の場合と比較しつつフォーマルな会話を 1 会話のみ分析しているのみに留まる．

フォーマルな状況での発話はさまざまなタイプが想定されるが，本論文では一例として政治家へのテレビインタビューを文字化したコーパスから 1 人称複数主語代名詞の用例を採取し分析を行う．フォーマルな状況における話し言葉における 1 人称複数主語代名詞の使用状況の解明の一助とするのが本論文での主目的となる．[3] また本研究では文字化されたコーパスを使用したが，話し言葉研究でこれを使用する際の限界点についても結論で触れる．

2. コーパス

コーパスは Barcat (2019)で使用された政治家へのテレビインタビューコーパスを使用する．[4] Barcat (2019)では政治家へのインタビューを 6 人分コーパスにしているが，本研究では質的に綿密な分析を行うためコーパスの規模を小さくして 3 人分調査することにした．3 人分とも，インタビュアーであるジャーナリスト 1 名が政治家 1 名に対してテレビのニュース番組上でインタビューしている形式である．またここでは政治家が発話した用例のみを分析対象として，ジャーナリストによる発話からの用例は分析の対象外とした．

本研究で使用したコーパスの話者情報[5]（表 1）ならびにコーパスのデータ（表 2）は以下の通りである．

表 1　使用したコーパスの話者情報

	Marine Le Pen	**Ségolène Royal**	**Nicolas Sarkozy**
年齢	48 歳	63 歳	59 歳
性別	女	女	男
政党	国民戦線	社会党	共和党

表 2　使用したコーパスのデータ

	Marine Le Pen	**Ségolène Royal**	**Nicolas Sarkozy**
語数	2071 語	2408 語	2531 語
録音時間	14 分 19 秒	19 分 12 秒	18 分 06 秒

出典	France 2 [6]の番組	LCI [7]の番組	France 2 の番組
録音年	2017 年	2017 年	2015 年

なお，すべてのコーパスにおいて政治家もインタビュアーも（単数の）対話者を tu ではなく vous で指示している．対話者を vous で指示することは，フォーマルな状況で発せられた話し言葉の形態統語論的マーカーとして考えることができる．

本研究では，この 3 人の政治家へのインタビューから政治家が発話した 1 人称複数主語代名詞 nous と on の用例を採取した．ただし不定代名詞 on はつねに 1 人称複数を指すとは限らず，たとえば以下の(4)のように不定総称的指示のものも存在する．このような on は本研究での分析対象外にあたるため，手作業で除去した．

(4) parce qu'<u>on</u> [=世間の人] m'a posé la question donc j'ai répondu euh franch- [8]

なぜなら私は質問を投げかけられたので，私は率直に答えて…….

(Ségolène Royal コーパス)

3. 分析結果

3.1. 生起数

前節で述べたように用例を採取した結果，それぞれの話者の 1 人称複数主語代名詞 nous と on のそれぞれの生起数は図 1 のようになった．

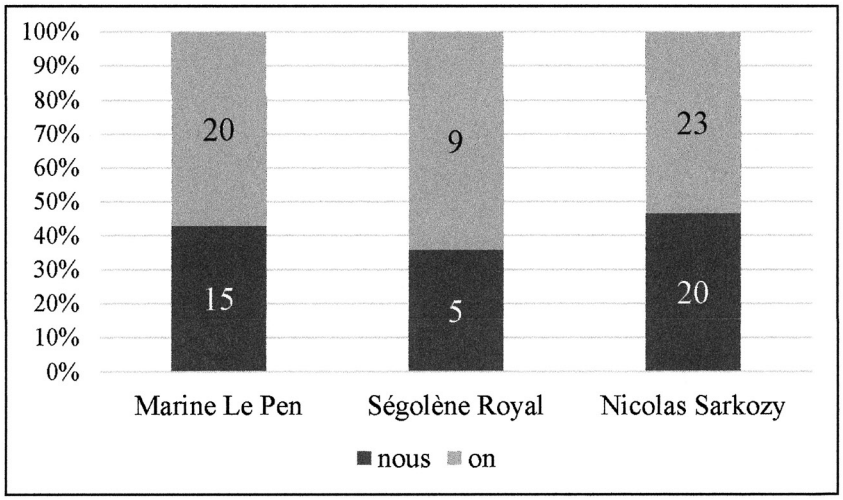

図1 nous と on の生起数と割合

本研究における調査から，1 人称複数主語代名詞の生起数について以下のことがわかる．まず，インフォーマルな状況だけでなく，政治家へのインタビューのようなフォーマルな状況における発話でも on は多く使用されているということである．ただし，インフォーマルな状況における発話を調査対象とした Coveney (2000)と異なるのは，政治

家のインタビューといったフォーマルな状況における発話を調査対象とした本研究では nous も多く観察されることである．どの話者も nous と on のどちらも使用していたが，それでも nous の生起数が on の生起数を上回る話者は本調査ではいなかったことから，フォーマルな状況における発話においても 1 人称複数主語代名詞に on は頻繁に使用されているということができる．

3.2. 各コーパス内の分析

本研究で用いた 3 つのそれぞれのコーパス(Marine Le Pen コーパス・Ségolène Royal コーパス・Nicolas Sarkozy コーパス)で使用されていた 1 人称複数主語代名詞についてさらに詳細にみていくことにしたい．具体的にはコーパス内のどの位置で on と nous が使用されていたのか，またどのような文脈で 2 つの 1 人称複数主語代名詞は用いられていたのかをみてゆく．前者の分析のために，本研究ではコンコーダンサーの AntConc 内の concordance plot 機能を用いた．Concordance plot 機能とは，コーパス内のどの(相対的な)位置で検索した語が使用されているのかを図式化する機能であり，検索した語が使用されている箇所は縦線で示される．また，Concordance plot 機能で作成された図の左端がコーパス(テクスト)のはじまりで，右端がおわりを示す．

3.2.1. Marine Le Pen コーパス

Marine Le Pen は以下の図 2，図 3 が示すように，on も nous も序盤から終盤にかけて使用されており，1 人称複数主語代名詞として 2 つの形態を混用していることがわかる．

図 2　AntConc の concordance plot (Marine Le Pen が使用した on)

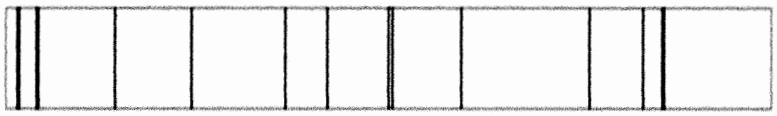

図 3　AntConc の concordance plot (Marine Le Pen が使用した nous)

ただし，用例に目を向けてみると，Marine Le Pen が nous を使用したのはすべて「われわれフランス国民」を意味する場合に限られた．(5)はその一例である．

(5) je pense que <u>nous</u> approchons # du moment euh décisif

<u>われわれ(フランス国民)は</u>決断の瞬間に近づいているのだと，私は思います．

(Marine Le Pen コーパス)

一方, on が使用されている文脈でも(6)のように「われわれフランス国民」を指していると解することができる用例がある.

(6) mais # le patriorisme # c'est de l'amour c'est un sentiment profond # que l'on a # ou l'on n'a pas #

でも愛国心というのは, 愛であって, われわれ(フランス国民)が持ったり, 持たなかったりする深い感情なのであります.

(Marine Le Pen コーパス)

以上のことから, Marine Le Pen は指示対象の観点からも on と nous の 2 つの形態を混用していることがわかる.

3.2.2. Ségolène Royal コーパス

次に Ségolène Royal コーパスに目を移してみよう. 図 4, 図 5 が示すように, Ségolène Royal は, on と nous を混用していた Marine Le Pen とは異なり, インタビューの序盤では nous を多用しているものの, 中盤から終盤にかけては on の使用にシフトしていることがわかる.

図 4　AntConc の concordance plot (Ségolène Royal が使用した nous)

図 5　AntConc の concordance plot (Ségolène Royal が使用した on)

以下の(7)の例は序盤から採取したものであるが, 一度 on と発話したにも関わらず, nous で言い直している用例である.

(7) heureusement qu'on nous avons fait cette ratification #

この批准を我々がすることができたのは幸運でありました.

(Ségolène Royal コーパス)

ただし, 後半では上の concordance plot 機能による図が示すように, on の使用にシフトしている.

(8) moi je veux que le pays soit fier de de de # qu'on soit fiers de nos agriculteurs

私はこの国(=フランス)にはわれわれ国民に自分たちの国の農家たちに誇りを持っていただきたいと思っております.

(Ségolène Royal コーパス)

Ségolène Royal による発話を詳しく観察してみると，否定の ne の脱落や il y a…における非人称の il の脱落などのような，インフォーマルな状況での発話において高頻度でみられる形態統語的特徴が，on が多用されるインタビュー後半で散見された．このことから，はじめのうちは 1 人称複数主語代名詞として規範的な形態とみなされる nous を使用するものの，時間が経つうちにインタビュアーとインタビュイーとの間の親近感が狭まり，Ségolène Royal はインフォーマルな状況の話し言葉において高頻度で観察される on を使用した可能性がある．

3.2.3. Nicolas Sarlozy コーパス

最後に Nicolas Sarkozy コーパス内の on と nous の使用について見てゆきたい．図 6，図 7 からわかるように，Nicolas Sarkozy はインタビューの序盤から終盤にかけて on と nous を完全に混用している．

図 6　AntConc の concordance plot（Nicolas Sarlozy が使用した on）

図 7　AntConc の concordance plot（Nicolas Sarlozy が使用した nous）

Nicolas Sarkozy の場合は，指示対象による on と nous の使い分けは見られず，自由に交替されていた．(9), (10)の on と nous はすべて発話者を含めたフランス国民を指している．

(9) il faut qu'<u>on</u> se mette bien d'accord sur ce qui est en train de se passer

<u>われわれ国民は</u>いま起きつつあることについて意見を一致しなければなりません．

(Nicolas Sarkozy コーパス)

(10) si demain # <u>nous</u> sommes face à une tragédie # de cette ampleur # à des événements dramatiques # faudra bien qu'<u>on</u> se serre les coudes

もし<u>われわれ国民は</u>劇的な出来事のこの拡大という悲劇に直面したとすれば，<u>われわれ国民は</u>互いに助け合っていく必要があるだろう．

(Nicolas Sarkozy コーパス)

また，政治家のインタビューのようなフォーマルな場面でありながら，il y a の il の脱落のようなインフォーマルな話し言葉でみられる形態統語的特徴インタビュー全体にみられた．しかし，それでも Coveney (2000)のような完全に

インフォーマルな状況での話し言葉とは異なり，nousもそれなりに多く使用されている．

4. 結語

本研究による調査で 1 人称複数主語代名詞について以下のことが明らかとなった．まず，政治家のインタビューのようなフォーマルな状況における話し言葉でも on は多く見られるということである．インフォーマルな状況の話し言葉と違うのは，nous も一定数観察されることであるが，本研究では on よりも nous を高頻度で使用する話者はみられなかった．このことから，on は，フォーマルな状況でも 1 人称複数主語代名詞として一般的に使用されている形態であるといえる．むしろ，インフォーマルな状況における話し言葉において観察されない nous は，フォーマルな状況における話し言葉にのみみられる形態である可能性がある．

また，nous と on の使い分けは，3.2.節での分析で明らかになった通り，話者によってそれぞれ異なる．Leeman (1991)などの先行研究ではもっぱら意味論的な観点からこれらの代名詞を分析しており，nous と on では同じ 1 人称複数でも意味が異なると主張されている．前者は指示対象とそれ以外とを対立させるようなニュアンスを持ち，後者はそのようなニュアンスを持たないとされているが，本調査における用例を見る限り，必ずしもそのような使い分けがなされているとは限らない．Marine Le Pen のように，nous による指示で「われわれフランス国民」と「他国の国民」とを対立させている場合もあるが，on でも同じように対立が認められる場合がある．また，Ségolène Royal や Nicolas Sarkozy が使用する on と nous には意味論的な差異は認められなかった．そして，Ségolène Royal はインタビューの前半では nous，後半では on で 1 人称複数を指示していたが，Marine Le Pen や Nicolas Sarkozy は前半から後半にかけて全体にわたり混用していた．このように，1 人称複数主語代名詞の 2 つの形態の使用は，話者によって多種多様であり，これらの 2 つの語の使い分けは語レベルでの意味論的観点からの分析のみでは説明できるものではない．

本研究では文字化されたコーパスを用いてインタビュー中のどこで on と nous が使用されたかという観点と指示対象の観点からに絞って分析した．ただし上述の点のみでは話し言葉における言語の使用形態の記述としては十分とはいえないだろう．英語学などで盛んに行われている会話分析といった手法を通じて，音声データあるいは映像データも活用しつつ音声学・音韻論的側面などからも精密に分析していくことで，より正確で包括的な話し言葉における言語の使用形態の記述ができるものと思われる．また本研究では，フォーマルな状況における話し言葉の一例として，政治家へのインタビューを取り上げ，分析したが，序論でも述べたようにフォーマルな状況における話し言葉は他にさまざまなタイプが想定されうる．そのため，他のタイプのフォーマルな状況の発話も継続して分析していく必要がある．ここで述べた問題点は今後の課題としたい．

注

* 本稿は，日本ロマンス語学会第 57 回大会(於清泉女子大学)における口頭発表「現代フランス語における 1 人称複数主語代名詞 nous と on の使用ー政治家のインタビューの場合」の内容を加筆・修正したものとなっている．ご助言やご批判をいただいた先生方に多大なる感謝を申し上げたい．

[1] インフォーマルな状況の発話とフォーマルな状況の発話との区分は様々だが，本論文では 2 人称単数を指す主語人称代名詞の形態から区分することにする．インフォーマルな状況の初はでは tu が用いられ，フォーマルな状況の発話では vous が用いられるといった具合である．

[2] 鈴木 (2018)では 1 人称複数を 4 人称と呼称しているが (詳細は同論文 p. 76 を参照されたい)，本誌は煩雑さを回避する観点から一般的な呼称である 1 人称複数に統一して記す．鈴木 (2018)における 4 人称と本論文における 1 人称複数は同義である．なお，4 人称という語は対象となる言語によって意味が様々である．

[3] 政治家が使用する 1 人称複数を指す表現には，nous のような代名詞のほかに，国を指す名詞（たとえば la France「フランス」など）などがあることが知られているが，本論文の趣旨からは逸れるため分析の対象外とする．

[4] 本研究でのコーパスの使用を快く承諾してくださった Corentin Barcat 氏にしるして感謝を申し上げたい．

[5] 話者情報は分析対象となっている政治家のもののみ掲載する．また，表 1 に記載した話者情報はテレビで放送された当時のものとなっている．

[6] フランスのテレビ局．

[7] 同上．

[8] 話し言葉コーパスである特性上，句読点は記していない．また#はポーズを示す．

参考文献

Anthony, L. AntConc (Version 3.4.2m) [Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University, 2014. Available from http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/

Barcat, C. J. (2018) *Les chutes de son en français oral formel et informel – Le cas du schwa, du /l/ des clitiques il(s) et elle(s) et des liquides en position finale*, Mémoire à Tokyo University of Foreign Studies.

Barcat, C. J. (2019). « Chutes de schwa et registre de langue : comparaison des productions de locuteurs en situation formelle et informelle », 『言語・地域文化研究』25，東京外国語大学大学院, pp. 145-167.

Blanche-Benveniste, C. (1985). « Coexistance de deux usages de la syntaxe du français parlé », *Actes du XVIIe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes* (Aix-en-Provence, 29 août-3 septembre 1983), vol.7, Université de Provence, pp. 203-214.

Blanche-Benveniste, C. et C. Jeanjean (1987) *Le français parlé*, Paris : Didier Erudition.

Coveney, A. (2000). « Vestiges of nous and the 1st person plural verb in informal spoken French », *Language Sciences* 22, pp. 447-481.

Damourette, J. et Pichon, E. (1940). *Des mots à la pensée*, vol 6, d'Artrey.

Fløttum, K., K. Jonasson et C. Norén. (2007). *ON Pronom à facettes,* De Boeck et Larcier.

Giacalone Ramat, A. et Sansò, A. (2007). The spread and decline of indefinite man-constructions in European languages: An areal perspective. In P. Ramat & E. Roma (Eds.). *Europe and the Mediterranean as Linguistic Areas:*

Convergencies from a historical and typological perspective. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, pp. 95-131.

Grafström, A. (1969). « 'On' remplaçant 'nous' en français », *Revue de linguistique romane* 33, pp. 270-298.

Grevisse, M. (2011). *Le Bon usage, 15e édition par André Goosse*, Bruxelles : De Boeck-Duculot.

Gumperz, J. (1982) *Discours strategies*, Cambridge : Cambridge University Press.

Leeman, D. (1991). « On thème », *Linguisticæ Investigationes* XV, pp. 101-113.

Mühlhäusler, P. et Harré, R. (1990). *Pronouns and People : The Linguistic Construction of Social and Personal Identity*, Basil Blackwell.

Suzuki, T., R. Nakagawa, H. Kawanishi and Y. Kawaguchi. (2019) Use of the pronoun *on* in Old French plays – A case study of *Le jeu de saint Nicolas* and *Le jeu de la feuillée, Flambeau* 44, Tokyo University of Foreign Studies, pp. 118-134.

Thomas, Adolphe V. (1956). *Dictionnaire des difficultés de la langue française*, Larousse.

鈴木拓真 (2018) 「不定代名詞onと人称代名詞nousの人称論的観点からの一比較考察 — 口語におけるnousの代替のonに着目して —」, 『ふらんぼー』43, 東京外国語大学フランス語研究室フランス研究会, pp. 72-86.

鈴木拓真・中川亮・川口裕司 (近刊) 「フランス語不定代名詞onの諸用法と通時的考察」, 『ロマンス語研究』52, 日本ロマンス語学会.

楊鶴・松田里沙・水落理子・木田剛 (2015)「政治演説の含意と談話ストラテジーーシャルリー・エブド事件に対するオランド大統領の演説分析ー」, 『筑波大学フランス語フランス文学論集』30, 筑波大学, pp. 94-119.